2023年度　日本工学院専門学校											
ミュージックアーティスト科／ヴォーカリストコース											
ベーシックレッスン２-a											
対象	１年次	開講期	後期	区分	必修	種別	実習	時間数	120	単位	4
担当教員	大山桂佑/Haruna			実務経験	有	職種	ボイストレーニング講師				

担当教員紹介

大山桂佑　1990/09/13シンガーソングライター、ピアニスト。昭和音楽大学声楽学科ジャズ・ポピュラーコース卒業。Nissy（AAA西島隆弘)、Kinki Kids、玉置浩二、 SKY-HI(AAA日高光啓)、三浦大知、クリスハート、香取慎吾(SMAP)、Ms.OOJA、TOSHI(XJapan)、TEE、 Hey Say Jump!、ソン・シギョン、久保田利伸、 福山雅治、桑田佳祐、コブクロ、向井太一等(順不同)の ライブツアーやレコーディング、収録に参加。 現在は自身の活動を主に、コーラス業、アレンジ業、音楽監督、メディアや映画音楽の収録、イベント出演など、幅広く活動中。

授業概要

　ハリウッド式ボイストレーニング（Speech Level Singingで使われる発声理論）を用いて音域の拡大･音色の改善･声量の増強を目的とする。毎週、学生を数名抜擢して、公開レッスン方式で授業を行いながら、個々が抱える自分の問題点、課題点が何なのかをまず自覚させることを目的とし、その問題の解決方法を学生と共に実践を通じて考えさせる。同時に、授業で行った事をいかに歌(表現) の中で活かすのかを、課題曲等を提示し、その中で実践できるようにする。

到達目標

声の発せられるメカニズムの理解･自分の行うべき改善目標の具体化　・具体化された目標を実際に到達させるためのトレーニングの日常化　・隔週で個別に声の状態を確認し、常に的確なエクササイズの割り当てを目指す

授業方法

全体授業と個別指導、少人数制グループレッスンを上手くローテーションした方法で、学生記録を付け、定期的にレベルチェックを行うなどして細かくレッスンを行っていく。個別指導の際も全体に分かりやすい公開レッスン方式で行っていく。

成績評価方法

試験・課題　70%　課題毎に提出。検定試験の受験・点数により評価
成果発表　　20%　授業内に行われるロールプレイング・グループワークにより評価
平常点　　　10%　積極的な姿勢

履修上の注意

　個人差が大きいので、ヒアリングをしっかり行ったうえでレッスンを進めていく。出席率、提出率が4分の3を満たしていない者、4分の3以上出席しない者は、定期試験受験不可、進級できない。

教科書教材

毎回授業にて資料配布を行う
参考書・参考資料等は授業中に指示をする

回数	授業計画
第1回	セミナー形式でそれぞれの悩みを聞き、実際に解決。前期に行うメニューのオーバー･ビューを見せる
第2回	ボイストレーニングにおける母音の考え方１
第3回	ボイストレーニングにおける母音の考え方２
第4回	母音と子音の考え方
第5回	ボイストレーニングにおける音階練習

2023年度　日本工学院専門学校	
ミュージックアーティスト科／ヴォーカリストコース	
ベーシックレッスン２-a	
第6回	音階練習(＃２つまで)
第7回	音階練習（＃４つまで)
第8回	#４つまでのスケール５つの発声音階練習
第9回	エクササイズの割り当て
第10回	トレーニングにおける音程音階を理解した上で適切な練習曲の選び方を理解する
第11回	課題曲によって音階を感じながら、正しい発声で歌う
第12回	トレーニングにおける音程音階を理解した上で適切な練習曲の選び方を理解する
第13回	エクササイズの割り当て
第14回	semi-ocludedエクササイズの音声学的な解説（リップバブル･ストローエクササイズなど)
第15回	トレーニング・メニュー（別紙参照）、エクササイズの割り当て

2023年度　日本工学院専門学校											
ミュージックアーティスト科／ヴォーカリストコース											
ベーシックレッスン２-b											
対象	１年次	開講期	後期	区分	必修	種別	実習	時間数	120	単位	4
担当教員	尾崎久美子/Maliya 横山愛実/大森祐斗		実務経験	有	職種	ボーカリスト					

担当教員紹介

大山桂佑　1990/09/13シンガーソングライター、ピアニスト。昭和音楽大学声楽学科ジャズ・ポピュラーコース卒業。Nissy (AAA西島隆弘)、Kinki Kids、玉置浩二、 SKY-HI(AAA日高光啓)、三浦大知、クリスハート、香取慎吾(SMAP)、Ms.OOJA、TOSHI(XJapan)、TEE、 Hey Say Jump!、ソン・シギョン、久保田利伸、 福山雅治、桑田佳祐、コブクロ、向井太一等(順不同)の ライブツアーやレコーディング、収録に参加。 現在は自身の活動を主に、コーラス業、アレンジ業、音楽監督、メディアや映画音楽の収録、イベント出演など、幅広く活動中。

授業概要

　ベーシックなボイストレーニングエクササイズの再確認をしながら、音程や音階の声による実践、習得に進み、リズムトレーニングやサイトシンギングの実践をし、シンガー／音楽家として必要な技術を習得すること。基礎トレーニングの反復練習の重要性、地道なトレーニングの土台があってこそ応用スキルが身に着くことを徹底して指導する。

到達目標

１．自分の声域と声区を知り、腹式呼吸強化のための様々なエクササイズをする。またその呼吸法をどのようにして歌唱の中に活かしていくのか、実際に曲中でそれが出来るようにする。
２．音階やハーモニー、リズムを声で表現できる能力を身につける。ルート音を鳴らし、ルートから正確な音程での音階(メジャー、マイナーすべての音階) を導き出せるようにする。また美しいハーモニーを作るために、他の音を聴きながら正しい音程をとることが出来るようにする。

授業方法

　ストレッチ、カウントブレス、種々のリップロール、数字によるスケール訓練、ハミング、ハーモナイズ、フォニックスを使ったエクササイズ、クラップ／ストンプリズムエクササイズ、サイトシンギングなど。授業時数の4分の３以上出席しない者は定期試験を受験することができない。

成績評価方法

試験・課題　70%　課題毎に提出。検定試験の受験・点数により評価
成果発表　　20%　授業内に行われるロールプレイング・グループワークにより評価
平常点　　　10%　積極的な姿勢

履修上の注意

　この授業では、キャリア形成の観点から、授業中の私語や受講態度などには厳しく対応する。理由のない遅刻や欠席は認めない。学習したエクササイズを授業以外でもレギュラーベースで復習実践すること。反復練習が必須の授業になる為、日々のトレーニング、スキル向上への意識を高めることも授業内でクラスの仲間と話ある時間を作りながら進めていきます。出席率、提出率が4分の3を満たしていない者、4分の3以上出席しない者は、定期試験受験不可、進級できない。

教科書教材

毎回授業にて資料配布を行う
参考書・参考資料等は授業中に指示をする

回数	授業計画
第1回	リズムパターンに合わせ体を動かし、歌えるようにする1
第2回	リズムパターンに合わせ体を動かし、歌えるようにする2
第3回	リズムパターンに合わせ体を動かし、歌えるようにする3
第4回	エクササイズを実践出来るようにする
第5回	リズムを感じると同時に譜面を追えるようになる

2023年度　日本工学院専門学校	
ミュージックアーティスト科／ヴォーカリストコース	
ベーシックレッスン２-b	
第6回	譜面の追い方を実践して見せる。そのコツを習得し、実践出来るようにする
第7回	アドリブをとるためのスケールを学び、実践につなげる
第8回	ボイストレーニングで学んだ事を活かして歌ってみる
第9回	正しいスケール音程をとれるようにする
第10回	正しい音程を理解したうえで歌えるように強化
第11回	リズムパターンを制作し、歌えるようにする
第12回	プロのシンガーについての理解
第13回	課題曲による発表会
第14回	発表会での動画を確認し、個人の反省点を再確認する
第15回	全体のまとめ

2023年度　日本工学院専門学校

ミュージックアーティスト科／ヴォーカリストコース

ベーシックレッスン２-c

対象	１年次	開講期	後期	区分	必修	種別	実習	時間数	120	単位	4
担当教員	大森裕人/三上薫			実務経験	有	職種	ボーカリスト				

担当教員紹介

Ryuta / Roland社製シンセサイザーデモンストレーター・キーボーディスト・ボーカリスト・作編曲家、オカリナ奏者
キーボーディストとして数多くのコンサートやレコーディングに参加。 特にゲーム・アニメ系の現場は多く「Game Symphony Japan」「Animation Symphony Japan」それぞれのレジデンシャルアーティストとして継続して参加。また、アーティストへの楽曲提供から、カラオケ制作や譜面作成、CMやイベントでのBGM制作とレコーディング、吹奏楽曲の作編曲まで幅広く請け負っている。オカリナ奏者としても活動し、CD「アナスタシア～天空のセレナード～」をリリース、同CDのレコ発ワンマンライブを決行。

授業概要

１．３人～５人の少人数から１０人、１００人単位の規模の大きな合唱曲まで実演できるようになる。
２．他人の声部をちゃんと耳でとらえながら、正しい音程をとりながらハーモニーを作っていくことが出来るようになる。
３．卒業後の職業として、コーラスの仕事も見据え、ハーモニーを自分で考え、またオブリガードやウーアーも付けられるようになる。

到達目標

アカペラで演奏できるようになること。周りのハーモニーを聴きながら自身のメロディーラインをしっかり聞き取れるようになること。ハーモニーラインを自ら考えられるようになること。この3つを目標として歌と向き合う授業になります。自身の頭の中で音を鳴らせるようになること、その音からハーモニーラインを考えることが出来るようになることを目標としている。

授業方法

アカペラ・ゴスペルの既存の曲を歌う　邦楽、洋楽問わず、既存曲にオリジナルのハモを考えて歌う　基本的には耳で覚え、譜面上ではなく聴覚上でハモりを身につけていく

成績評価方法

試験・課題　70%　課題毎に提出。検定試験の受験・点数により評価
成果発表　　20%　授業内に行われるロールプレイング・グループワークにより評価
平常点　　　10%　積極的な姿勢

履修上の注意

邦楽に偏らず、広く洋楽も取り入れ、グルーヴ感も身に着けていくので、体を動かすことが必須の授業であり、仲間とのコミュニケーションを深める授業にあります。授業時数の４分の３以上出席しない者は定期試験を受験することができない。出席率、提出率が4分の3を満たしていない者、4分の3以上出席しない者は、定期試験受験不可、進級できない。

教科書教材

毎回授業にて資料配布を行う
参考書・参考資料等は授業中に指示をする

回数	授業計画
第1回	声でアンサンブル1　《アカペラ》Why do fools fall in love　《ゴスペル》Oh happy day
第2回	声でアンサンブル2　《アカペラ》Why do fools fall in love　《ゴスペル》Oh happy day
第3回	声でアンサンブル3《アカペラ》Why do fools fall in love　《ゴスペル》Oh happy day
第4回	声でアンサンブル4　《アカペラ》Why do fools fall in love　《ゴスペル》Oh happy day
第5回	声でアンサンブル5　《アカペラ》Silver bells　《ゴスペル》サンタが街にやってくる

2023年度　日本工学院専門学校	
ミュージックアーティスト科／ヴォーカリストコース	
ベーシックレッスン２-c	
第6回	声でアンサンブル6　《アカペラ》Silver bells　《ゴスペル》サンタが街にやってくる
第7回	声でアンサンブル7　《アカペラ》Silver bells　《ゴスペル》サンタが街にやってくる
第8回	少人数で歌ってみる　復習　反復練習
第9回	和音から音が取れる8　《アカペラ》ルージュの伝言　《ゴスペル》Seasons of love
第10回	和音から音が取れる9　《アカペラ》ルージュの伝言　《ゴスペル》Seasons of love
第11回	和音から音が取れる10　《アカペラ》ルージュの伝言　《ゴスペル》Seasons of love
第12回	和音から音が取れる11　《アカペラ》ルージュの伝言　《ゴスペル》Seasons of love
第13回	和音から音が取れる1２　《アカペラ》ルージュの伝言　《ゴスペル》Seasons of love
第14回	少人数で歌ってみる　復習　反復練習
第15回	後期の総括、まとめ

2023年度　日本工学院専門学校											
ミュージックアーティスト科／ヴォーカリストコース											
ベーシックレッスン２-d											
対象	１年次	開講期	後期	区分	必修	種別	実習	時間数	120	単位	4
担当教員	大山佳祐/大森祐斗			実務経験	有	職種	ボーカリスト				

担当教員紹介

大山桂佑　1990/09/13シンガーソングライター、ピアニスト。昭和音楽大学声楽学科ジャズ・ポピュラーコース卒業。Nissy（AAA西島隆弘)、Kinki Kids、玉置浩二、 SKY-HI(AAA日高光啓)、三浦大知、クリスハート、香取慎吾(SMAP)、Ms.OOJA、TOSHI(XJapan)、TEE、 Hey Say Jump!、ソン・シギョン、久保田利伸、 福山雅治、桑田佳祐、コブクロ、向井太一等(順不同)の ライブツアーやレコーディング、収録に参加。 現在は自身の活動を主に、コーラス業、アレンジ業、音楽監督、メディアや映画音楽の収録、イベント出演など、幅広く活動中。

授業概要

様々な楽器演奏者との合奏（アンサンブル）を通してそれぞれの個性や特性への理解を深め、ヴォーカリストとしての役割を理解し、表現者としての視点や考え方を体験の中から学び取る。また、バンドで歌う事に慣れ、様々な環境でモニター含め自分なりに調整できる能力を養う。

到達目標

普段はあまり触れる事の無い洋楽を取り入れ、裏拍を感じながらのリズム取り、ペンタトニックを使ってのアドリブ唱法、正しい英語の発音による母音、子音の理解などを身に付ける。また、生のバンドと歌う経験を今から重ね、今後自身のイベントライブなどで、自身のモニター調整、マイクの位置、また身振り手振りのステージング等も身に付けておく。

授業方法

ドラム、ギター、ベース、キーボードなどの楽器との合奏（アンサンブル）を行う。英語と日本語の様々なジャンルを課題曲として演奏していく。

成績評価方法

試験・課題　70%　課題毎に提出。検定試験の受験・点数により評価
成果発表　　20%　授業内に行われるロールプレイング・グループワークにより評価
平常点　　　10%　積極的な姿勢

履修上の注意

毎日の継続的な基礎トレーニングをする。様々なジャンルの音楽の鑑賞と研究をする。
日々の生活の中で言葉や歌詞に対しての興味を持ち、伝えるという事を考える。出席率、提出率が4分の3を満たしていない者、4分の3以上出席しない者は、定期試験受験不可、進級できない。

教科書教材

毎回授業にて資料配布を行う
参考書・参考資料等は授業中に指示をする

回数	授業計画
第1回	歌詞を理解する、　リズムを理解する
第2回	アンサンブルを通してのパフォーマンスができる
第3回	歌詞を理解する、　リズムを理解する
第4回	メロディーを理解する、アンサンブルに対しての準備をする
第5回	アンサンブルを通してのパフォーマンスができる

2023年度　日本工学院専門学校	
ミュージックアーティスト科／ヴォーカリストコース	
ベーシックレッスン２-d	
第6回	歌詞を理解する、　リズムを理解する
第7回	メロディーを理解する、アンサンブルに対しての準備をする
第8回	アンサンブルを通してのパフォーマンスができる
第9回	歌詞を理解する、　リズムを理解する
第10回	メロディーを理解する、アンサンブルに対しての準備をする
第11回	アンサンブルを通してのパフォーマンスができる
第12回	歌詞を理解する　、リズムを理解する
第13回	メロディーを理解する、アンサンブルに対しての準備をする
第14回	アンサンブルを通してのパフォーマンスができる
第15回	フロントマンとしてのパフォーマンスができる